

14. 頸部・椎間関節ブロック，後枝内側枝ブロックと抗凝固・抗血栓療法

CQ16：抗凝固薬・抗血小板薬を使用している患者に対し，頸部の椎間関節ブロック，後枝内側枝ブロックを施行する場合には休薬が必要か？

アスピリンを含む抗血小板薬を服用している患者に対しては，適切な休薬期間の後，椎間関節ブロック，後枝内側枝ブロックを施行すべきである。抗凝固薬を服用している患者に対しても，休薬期間が必要であるが，休薬に伴うリスクを考慮した上で，症例ごとに慎重な検討が必要である。

推奨度，エビデンス総体の総括：2D

科学的根拠は低い

解説：

椎間関節ブロックおよび後枝内側枝ブロックは，椎間関節痛の診断に有効であることが示されている。一方，抗凝固薬や抗血小板薬を使用している患者を対象にブロックを安全に施行できるか，については明らかではなく，症例報告を含め，高いエビデンスがある報告は存在しない。内服患者群とコントロール（非内服患者群）を比較して，ブロックの影響を評価する RCT を行うことは非現実的であろう。

米国（ASRA）のガイドラインでは，椎間関節ブロックは，圧迫止血が困難な解剖学的特徴を踏まえ，中リスクのブロックに分類されている。英国や欧州のガイドラインでは，椎間関節ブロックに関する記述はないが，浅部であっても血管と並走する神経に対するブロックは中等度リスクの手技と位置づけている。椎間関節（第3頸椎より下位）前方の横突孔には椎骨動脈が走行しているが，X線透視下，超音波ガイド下に施行すれば，誤穿刺は回避できる。ただし，手技に習熟した医師による施行もしくは助言が必要である。

各々の抗血小板薬や抗凝固薬については，①複数の抗血小板薬・抗凝固薬の内服，②年齢，③肝・腎機能低下，④異常出血の既往，などを踏まえて，薬物に応じた適切な休薬期間を設けるか否かを，処方医，患者とともに決定すべきである。

また，抗凝固薬・抗血栓薬の休薬により，冠動脈や脳血管疾患など，処方に至った原疾患の悪化が生じることもあるので，ブロックの効果と原疾患の重症度と休薬の利益得失を十分に考えた上で，処方医や患者との十分な議論を踏まえて施行するかどうかを判断することが望まれる。

なお，総論部分との繰り返しになるが，上記推奨事項はあくまでも現存の資料等から考察されたものであり，個別症例に対する適用では，症例ごとの特性に基づき個別に判断されるべきものである。

米国区域麻酔学会：
ASRA：American Society of
Regional Anesthesia and Pain
Medicine

参考文献

<原著論文>

1. Finlayson RJ, Etheridge JP, Tiyaprasertkul W, et al: A randomized comparison between ultrasound- and fluoroscopy-guided C₇ medial branch block. *Reg Anesth Pain Med*. 2015; 40: 52-57

<ガイドライン>

米 国

2. Narouze S, Benzon HT, Provenzano DA, et al: Interventional spine and pain procedures in patients on antiplatelet and anticoagulant medications: Guidelines from the American Society of Regional Anesthesia and Pain Medicine, the European Society of Regional Anaesthesia and Pain Therapy, the American Academy of Pain Medicine, the International Neuromodulation Society, the North American Neuromodulation Society, and the World Institute of Pain. *Reg Anesth Pain Med* 2015; 40: 182-212
3. Horlocker TT, Wedel DJ, Rowlingson JC, et al: Regional anesthesia in the patient receiving antithrombotic or thrombolytic therapy: American Society of Regional Anesthesia and Pain Medicine Evidence-Based Guidelines, 3rd ed. *Reg Anesth Pain Med* 2010; 35: 64-101

欧 州

4. Gogarten W, Vandermeulen E, Van Aken H, et al: Regional anaesthesia and antithrombotic agents: recommendations of the European Society of Anaesthesiology. *Eur J Anaesthesiol* 2010; 27: 999-1015

英 国

5. Working Party, Association of Anaesthetists of Great Britain & Ireland, Obstetric Anaesthetists' Association, et al: Regional anaesthesia and patients with abnormalities of coagulation: the Association of Anaesthetists of Great Britain & Ireland The Obstetric Anaesthetists' Association Regional Anaesthesia UK. *Anaesthesia* 2013; 68: 966-972